

保育・子育てにたずさわる
みなさんへ

選挙に行こう

衆議院議員選挙の投票が2月8日あります。「支持率が高いうちに、隠してきた問題がバレないうちに選挙したい」という身勝手な理由で行なわれる選挙ですが、やるからにはしっかりと各政党の主張を見きわめて、少しでも明るい未来につながる選択をしたいと強く思います。

一つ目は**平和の問題**です。米国は「力が全て」という考え方で、公然と軍事侵攻を行い他国の領土や資源を略奪しようとして、世界中に混乱と不信が広がっています。「米国のいいなり」で防衛費を増やし続けているわが国のやり方は根本から改める必要があります。勇ましい言論では相手国との信頼は築けませんし、核兵器は戦争を抑止することもできません。広い視野で平和を真剣に追求する政党を選びたいものです。

二つ目は**暮らしの問題**です。物価が上がり実質賃金は下がり続け、私たちの生活は苦しくなる一方です。他方、高市内閣は国債を増発して借金依存をますます強め、その利息払いでの財政が立ちゆかなくなるのでは、という懸念が高まっています。問題が深刻でかつ複雑なためにどんな経済政策が妥当なのかわからなくなるほどです。数字のまやかしや一時的なバラマキで問題から逃げるのではなく、冷静に現実を直視し、もっとも弱い立場の視点から、生活と成長の方向を打ち出そうとしている政党はどこなのか、見分けたいものです。

三つ目は**保育の問題**です。私たちの運動のかいあって、保育者の待遇や配置基準において一定の改善が進んだのは大きな成果です。しかし保育現場の疲弊感や経営の苦しさは変わっていません。病院、老人施設、大学など基本的な社会インフラはどこも経営が逼迫しています。防衛費の増額などやっているときではありません。現場で働く人たちの努力をしっかりと受け止めて、市民生活を支える制度の改善にがんばって取り組む政党に一票を投じましょう。

それにしても、最近、「え!」「まさか!」と驚くような出来事が次々に起こっていて、世界が大変動期に突入している実感があります。何をたしかな拠り所にして生きていくか、誰もが模索している時代なのかもしれません。みなさんは、どう感じていますか？保育・子育てに関わっている大人同士が、日々の思いや悩みを安心して話せる、ほっとできる、そんな場所をつくりながら支え合っていきたいですね。

私たちの社会がどんな未来に向かってすすむのか…
そこに関わる大事な選挙です。

みなさん、いっしょに行きましょう！

全国保育団体連絡会会長 大宮勇雄



黙っていてはいけない、子どもたちのために

志村毅一（東京・（福）民友会元理事長）

私は十五年戦争といわれる1930年から45年までの戦争の途中に生まれて、小学校2年生の時、敗戦となりました。その時にはもう、完全な軍国少年でした。私の父も母もそんなに戦争に協力的ではなかったし、疎開先の田舎の小学校では、カエルを取ったり小川で粘土をとったりしていて、軍国教育を受けた記憶はありません。にも関わらず、小学校2年で「やっぱりこの戦争は勝たなきゃいけない、鬼畜米英をやっつけよう！」と思ったのはなぜか。今よく考えてみると、大人が黙っていたからではないかと思います。

現在の状況と似ているように感じますが、みんな黙ってしまった。おかしいなと思う人や戦争には賛成じゃないという人が物を言わなくなったり。みんなが黙ってしまうと、小学校2年生の私の耳には「戦争をすすめよう」という声しか入ってこないんです。みんなが黙ってしまうと、何かしようという悪だくみをする人の声が強くなる。私は今、切実にそれを感じ、不安に思っています。

私は今、何を言わなきゃいけないのか？大人が何を言わなきゃいけないのか？2度と私のように軍国少年になる子どもが出ないようにするためにには、今、大人が何を言うのか。みなさんが本当に大事にしておられる子どもたちが、私が経験したような目にあわないためには、今、大人が言わなきゃいけない。「おかしいことはおかしい、それって違うんじゃない？」って、言わなきゃいけないんじゃないのか…。今は、そういう時なんだ、と私は思っています。

今はまだ、思っていることを言えます。言うことは勇気もいるかもしれないし、大変なことだと思いますが、言える人たちが言わなきゃいけない。

日本には戦争の放棄をうたった九条を中心とする日本国憲法があります。憲法には、戦争でアジアの国々を侵略した体験、原爆や空襲での被害の体験、そうした体験から戦争は嫌だ、というたくさんの人たちの思いが込められています。そのことを心にとめながら、子どもたちを守る活動をこれからも進めていきたいと思っています。

「政治がわからない」では子どもは守れない

…あまりにヒドイ政治なので、「政治には期待しない」「かかわりたくない」という人も出てきました。でも、政治の方は必ず私たちにかかわってきます。
…よりよい保育園、よりよくらしを願うなら、私たちは政治から逃げるわけにはいかないのです。正面から向き合って、みんなで「かしこい市民（有権者）」になるしかなのです。

月刊『ちいさいなかま』2025年11月号より
「忙しくても、政治から目を離さずに」
(神戸女学院大学名誉教授・石川康宏さん)



2月8日投票で衆議院議員選挙が行われます

衆議院議員選挙は小選挙区と比例代表と2回投票します。

①小選挙区は「候補者名」

②比例代表は「政党名」 *候補者名を書くと無効

投票日当日が仕事等用事がある場合は期日前投票ができます。

イラスト：近藤理恵